

## 発足の頃の思い出

中山輝也\*

最初から私ごとで誠に恐縮ですが、二年程勤めた会社を辞めて、新潟県庁に採用されたのが昭和36年の暮れでした。新年になって、完成したばかりの第一分館（現在の市役所分館）へ移り、主にダムや発電所の地質の仕事を担当したのですが、丁度事業の端境期で少々閑をもてあまし気味でした。何しろ、かけだし公務員の悲しさです。民間とちがって、与えられた仕事のほかは、動きがとれず、唯々専門書を読んだり、同僚の土木屋と技術論議で過ごす日課でした。そんなことをして過ごすうちに、一、二ヶ月が過ぎ、且つての同僚達はどうしているだろうとか、実践の上で差がつくのではないか、情報が不足すぎる、など少々あせりに似た気持ちをもつようになりました。新潟もこの道の先輩や同僚が沢山いるはず、これらの人々が一緒に何か出来ないはずはないと思い学生時代にもときどきお世話になった先輩の須田さん（県原子力安全対策室長）と二人で粗案を作り、同じ県庁の先輩奥村さん（国際航業新潟支店長）、農地部の岩永さん（キタック常務）、商工労働部の赤沢さん（県開発課長）、土木部の伊藤さん（県村上土木次長）に話し、この会の結成の賛同を得て、直ちにこれらの方々と行動をおこしました。当時は県庁企業振興課のなかに地質出身者が一係を形成していましたので、もぐりで事務局をここにおきました。新潟大学でも、西田先生（故人）、津田先生（新大校長）、今井先生（早稲田大教授）、茅原先生（新大名誉教授）、民間では根本さん、（日さく）、松山さん（日さく取締役）、小宮さん（新協顧問）それに早川さん、池田さん（興和取締役）が何かと相談ののったり、いろいろアドバイスをして下さいました。昭和37年の3月、当時の理学部（木造の旧制高校）の教室を借り、設立総会が開かれ、会則を採択し、西田会長を選出し、第一回例会を開きました。たしか会員は40人くらいでしたが、それでも出席者は30人くらいだったと記憶しております。新潟応用地質研究会の誕生です。「応用地質」でこれだけの人々が新潟で一堂に会したのははじめてのことです。東京には、応用地質研究会（現日本応用地質学会）がありましたが、地方では北海道について二番目でした。その後各県にこの種の研究会が誕生しておりますが、当時としてはきわめてユニークな存在でした。中央の支部にならないかなどとの話もありましたが自主路線ということで立消えとなりました。

その後、当地には応用地質分野で若手の進出がめざましく、さらには土木屋も次第に理解をしめすようになり、会員約100名を越えるのにさほど時間はかかりませんでした。3月、9月に例会が開かれ、時どき教育学部（現在の医技短大）の教室を白井先生（新大教授）のお世話で利用したこともありました。その後、20歳代から30歳代の若手技術者も中堅になり、高度成長期の業務遂行の為や、時間的余裕がないこと、次代との引継ぎがうまくゆかないことなどから、一時中断の時期もありましたが、再生後の池田前会長（長岡技大名誉教授）、小川会長（長岡技大教授）の御努力は勿論ですが、ここしばらくの幹事会の企画力・行動力が会を発展させた功績は大きいと思います。前幹事長の石橋さん（県河川開発課補佐）、現幹事長の山岸さん（県長岡土木次長）が発揮された産官学出身幹事への分けへだてのない指導力、統率力であると2年で30周年を迎えるにあたり、もっとも充実した会に育てあげたものと確信しております。

\*当会評議員 ㈱キタック社長